

2019年8月7日
イオンタウン株式会社

「イオン心をつなぐプロジェクト」活動報告 イオンタウン釜石を中心とした新たなツアーを実施

この度イオンタウン株式会社(本社：千葉県千葉市、代表取締役社長：加藤 久誠)は、2019年8月2日(金)～4日(日)で、イオンタウン釜石を中心とした「イオン心をつなぐプロジェクト・イオン未来共創プログラム in 釜石」を労使14名で実施いたしました。

8月3日(土)に開催された釜石の夏を彩る風物詩である「釜石よいさ」への参加や、地域の産業育成プロジェクト「まちなか遊び」から生まれた、株式会社ササキプラスチックさまの「ラグビーけんだま」を新たな釜石の名産品とするためのグループワークなど、地域の活性化の一助となるべく活動を実施いたしましたのでご報告いたします。

イオンは東北大震災の発生を受け、長期にわたる被災地の復興を支援するため、労使で「イオン心をつなぐプロジェクト」を発足し、これまで地域の皆さまとともに、グループ各社により様々な取り組みを実施してまいりました。

イオンタウンは、これからも、地域の皆さまと手を携え、東北の創生に向けて取り組んでまいります。



■地元の夏祭り「釜石よいさ」に総勢50名で参加

2014年から毎年「イオンタウン釜石」として参加をしている釜石よいさに、イオンカラーの浴衣を着用して総勢50名で参加し、地域の皆さまと共にお祭りを盛り上げて参りました。

参加メンバー

ホワイト急便等の同友店さまをはじめ、イオンスーパーセンター(株)、イオンスポーツ(株)、(株)ジーフット、(株)サンデー、(株)メガスポーツ、イオンディライト(株)、およびイオン心をつなぐプロジェクトメンバーを含むイオンタウン(株)従業員、総勢50名

「釜石よいさ」とは

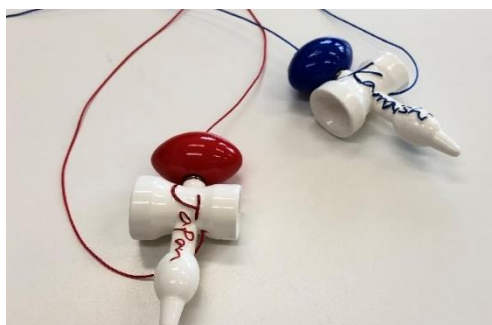
100年燃え続けた製鉄所の高炉の火が消え、これから先への不安が釜石全体を覆っていた1987年8月9日、釜石よいさは誕生しました。街に活気を取り戻したい、自分たちにできることはないかと市内に住む若者が中心になって始まった釜石よいさは、釜石の夏を彩るイベントとして定着し、長く市民に親しまれています。東日本大震災による2年の休止を経て、“釜石の夏の風物詩”は、復活から7年目を迎えました。

■『ラグビーけんだま』で釜石を元気に！地元企業さまとグループワーク



ラグビーけんだまは、岩手県沿岸広域振興局が中心となり、イオンタウン釜石で継続的に実施されている地域活性化体験プログラム「まちなか遊び」のなかで、2017年12月、地元企業である株式会社ササキプラスチックさまにより考案され、けん玉大会などを実施してきました。

大会用のけん玉を小型化し、ネックレスのような形にした「マグネットラグビーけんだま」を釜石の新たな名産品にすることを目標に、イオンタウンが協力可能な効果的なPR方法は何かなど、地元企業さまと共にグループワークでアイデアを出し合いました。



マグネットラグビーけんだまを使ったイオンタウン杯の開催や、SNSを使った拡散方法、ラグビーボール原寸大のけんだまの展示など、自由なアイデアが多く出され、グループワークは、大いに盛り上がりました。

※「イオン心をつなぐプロジェクト」

労使一体となって被災地での植樹やボランティア活動に取り組む「イオン心をつなぐプロジェクト」を震災から1年後の2012年3月に立ち上げ、2021年までの10年間に延べ30万人の従業員によるボランティア活動、東北沿岸部での合計30万本の植樹活動を実施することを掲げて取り組んでいます。

2019年3月末現在、33万2,627人の従業員がボランティア活動に参加し、約30万本の植樹を行っています。

※「イオン未来共創プログラム」

心をつなぐプロジェクトの一環として、イオングループの一企業が一地域と関係性を深め「交流と創造」を通じて地域課題の解決に取り組むプログラム

○活動地域

<岩手県>釜石市、大槻町、遠野市米通地区

<宮城県>気仙沼市大島、丸森町耕野地区

<福島県>浪江町、二本松市、南相馬市小高区